

小鈴はマロシケークをセグッと口に入れる。

すると小鈴は美味しいとばかりにニヤツとする。

余りに美味しそうに食べるのでちよつとだけ附れる。

「もう白梅とは開わりたくないな」

「あら、酷い言われようね」

エリ方に広二つの人物がカブエデラスに現れる。

「・・・白梅加理恵さん、で良かったかな？」

終